

キャベツ苗移植同時粒剤植穴施用装置の開発

研究のねらい

キャベツのアブラムシ等の害虫初期防除を効率的かつ省力的に行うため、三菱農機株式会社と共同研究を行い、キャベツ苗移植同時粒剤植穴施用装置を開発しました。

技術の特徴

1 装置の特徴

ホッパーに適用薬剤（粒剤）を充填し、通常の定植作業を行いながら、苗の植付位置に粒剤を施用できます。



写真1 開発機による定植風景



写真2 薬剤ホッパーとコントローラー（白枠内）

2 期待される効果

- (1) 定植時植穴処理を行うことで、初期のアブラムシ等の発生が抑制できるため、安定生産に寄与します。（図）
- (2) 手作業で行っていた定植時の粒剤処理が、通常の定植作業の中で行えるので、省力的です。
- (3) キャベツだけでなく、ブロッコリー等でも活用できます。

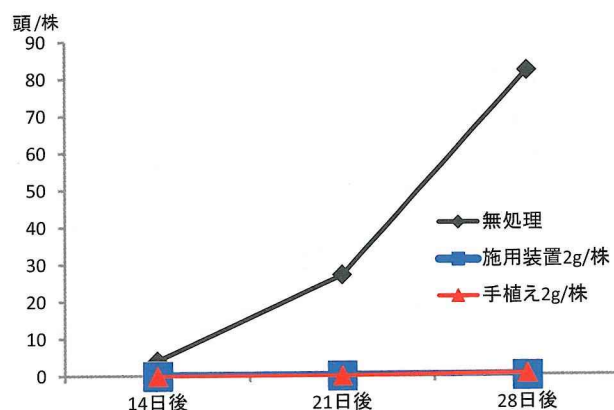


図 NEOニコチノイド系施用時のアブラムシに対する防除効果

3 利用上の留意事項

- (1) 本装置は、平成23年12月より、三菱農機（株）で販売されています。
- (2) 本装置で使用可能な薬剤は、植穴土壌混和、植穴処理土壌混和、植穴処理、定植時植穴処理、定植時植穴散布の使用方で登録のある粒剤です。
- (3) 粒剤の剤質が硬いものは、吐出ロールが摩耗するので、使用できません。

今後の取り組み

9月上旬に、本装置のフォローアップセミナーの開催を予定しています。

（執筆者：小林 逸郎）